

目 次

第一部 自然環境

第一章	位置・地形・面積	1
一	位置	1
二	地形	2
三	面積	4
第二章	地質	7
第三章	気候	11
第四章	人口	15
第五章	動植物	22
一	皿ヶ嶺	22
二	福見連峯	26
三	その他	29
四	天然記念物	29
	(一) ビヤクシン (二) オキチモズク	
	(三) ベニモンカラスシジミ	
第六章	重信川	32
一	重信川の現況	33

第二部 歴史の流れ

第二章	流域状況 (一) 地形 (二) 地質 (三) 利水	
二	重信川流路の変遷と治水	37
	(一) 第一期 (二) 第二期 (三) 第三期	
	四 足立重信の伊予川改修 四 藩政時代の重信川 (六) 明治期の重信川の治水 (八) 昭和期の治水 (九) 昭和一八、二〇年の水害 (三) 戦後の治水	
第一章	遺跡をたずねて(原始時代)	53
一	縄文時代(重信町の黎明)	54
二	弥生時代(紀元前三世紀—紀元三世紀)	58
	弥生前期 弥生中期	
三	古墳時代	78
	古墳時代の分類 重信町の古墳	
第二章	古代から中世	87
一	久米郡と浮穴郡	87
	(一) 国郡制度 (二) 久米郡 (三) 浮穴郡の成立 (四) 浮嶋神社の授階	

二 伽藍黨跡と拜志庵寺……………92

三 中世の史話……………99

- (一) 田窪太郎と白石三郎 (二) 卒塔婆物語
- (三) 錢壺の謎 (四) 花山城と森伊豆守
- (五) 岩伽羅城と和田氏

第三章 封建治下のあゆみ(近世)

一 農村と農民生活……………132

- (一) 江戸時代の村 (二) 農民の生活

二 松山藩の検地と村高……………143

- (一) 農民の負担 (二) 定免制 (三) 新田開発
- (四) 地埤

三 牛淵村の村移り……………158

- 四 享保の大飢饉……………160

- 五 長州征伐と郷土……………162

第四章 近代地域社会の形成

一 明治維新から町村制実施まで……………165

- (一) 明治維新と松山藩 (二) 久万・久米騒動
- (三) 地租改正 (四) 行政の変遷

二 三か村のあゆみ……………180

- (一) 町村制の施行と三か村の行政 (二) 北吉

第五章 重信町一六年のあゆみ

- 井村 (三) 南吉井村 (四) 拜志村
- 一 重信町の誕生……………221
- (一) 町村合併促進法の公布 (二) 重信町誕生の経過 (三) 合併促進協議会のあしどり
- (四) 合併祝賀会

- 二 新町建設計画……………238
- (一) 新町建設の基本構想 (二) 部門別構想

- 三 新町基礎期(昭和31年9月～35年9月)……………242
- (一) 町長・町議会議員選挙 (二) 第一次高須賀町政のスタート (三) 行政の概要

- 四 新町建設計画推進期(昭和35年9月～39年9月)……………251
- (一) 第二期町政の課題 (二) 行政の概要

- 五 近代的町づくりの推進期(昭和39年9月～43年9月)……………264
- (一) 第三期町政の課題 (二) 町政の概要

- 六 地域開発と福祉の増進(昭和43年9月～47年9月)……………280
- (一) 第四期町政の概要

- 七 第五期町政……………289

第六章 農業水利小史—その歴史と慣行—

一 重信川と重信町……………295

二 北吉井地区の水利……………298

- (一) 菖蒲堰用水 (二) 樋口・志津川・西岡三部落の水利

三 南吉井地区の水利……………327

- (一) 見奈良地区の水利 (二) 見奈良の余水と田窪 (三) 田窪・牛淵上井手地区の水利
- (四) 牛淵下井手・南野田・北野田地区の水利

四 拜志地区の水利……………355

- (一) 上林・下林上組の水利 (二) 下林下組および上村の水利

五 水利現況……………373

第三部 教育

第一章 教育の概要

一 寺小屋……………381

二 近代教育の創始……………383

三 初等教育の整備……………387

四 義務教育制度の確立……………389

五 国民学校と戦時の教育……………390

第二章 学校教育

一 北吉井小学校……………395

二 山之内小学校……………402

三 南吉井小学校……………404

四 拜志小学校……………411

五 上林小学校……………416

六 重信中学校……………420

七 山之内中学校……………425

八 拜志中学校……………425

九 養護学校……………426

- (一) 愛媛県立第一養護学校 (二) 愛媛県立第二養護学校 (三) 愛媛県立第三養護学校

一〇 愛媛県立東温高等学校……………430

一一 幼稚園……………434

- (一) 私立「北吉井仲よし学園」 (二) 私立「見奈良のぞみ幼稚園」

第三章 社会教育……………436

一 戦前の社会教育……………436

第四部 産業・経済

二 戦後の社会教育……………450

(一) 青年会の設立 (二) 勤労青年の教育

(三) 青年団の活動 (四) 戦前の婦人会

(一) 公民館 (二) PTA (三) 婦人会

(四) 青年団 (五) 文芸・美術活動等

六 養蚕……………528

七 畜産……………533

八 農業協同組合……………540

第二章 林業……………544

一 藩政時代……………544

二 明治前期……………550

三 明治後期……………553

四 大正期の林業……………554

五 村有林の造林……………556

六 民有林と戦後の林業……………563

七 町有林の変遷……………565

八 林業の現況……………565

九 林業団体……………568

第一章 農業

一 農政と農業技術の発達 (戦前)……………469

二 小作争議と農地改革……………478

(一) 明治期の地主・小作関係 (二) 米穀検査

実施の反対 (三) 小作人組合 (四) 小作争議

(五) 自作農創設維持 (六) 農地改革 (七) 農地改革関係者

三 戦後の農業……………493

(一) 食糧増産と農村の民主化 (二) 新しい村づくり事業 (三) 農業構造改善事業と畑地灌漑 (四) 県営重信地区旱害対策事業 (五) 道前道後水利開発事業 (六) 米の生産調整 (七) 重信町農業の実態と展望

第三章 商工業

四 蔬菜と特用作物……………512

五 果樹……………523

一 戦前の商工業……………574

(一) 藩政期 (二) 明治以後

二 戦後の商業……………581

三 戦後の工業……………585

四 金融……………589

一 戦前の商工業

一 戦前の商工業……………574

(一) 藩政期 (二) 明治以後

二 戦後の商業……………581

三 戦後の工業……………585

四 金融……………589

第五部 交通と通信

第一章 交通・運搬

一 明治期の交通……………595

二 大正期の交通……………597

三 昭和期の交通……………598

(一) バス (二) 自動車

四 道路……………602

(一) 明治以前の道路 (二) 大正以後の道路

(三) 戦後の道路

五 橋梁……………612

六 鉄道……………615

(一) 横河原線の開通 (二) 横河原線の変遷

(三) 横河原線の電化 (四) 見奈良駅付近の改善

第六部 厚生・福祉

第一章 保健・衛生

一 明治・大正期の衛生……………633

二 避病舎……………639

三 国民健康保険事業……………641

(一) 戦前の国民健康保険組合 (二) 戦後の国民健康保険 (三) 新町発足と国民健康保険の再開

四 医療機関の変遷……………644

(一) 開業医 (二) 国立愛媛療養所

五 重信町共同保健計画……………653

六 環境衛生……………657

(一) 火葬場 (二) 墓地 (三) 塵あい焼却場

(四) し尿処理 (五) 野犬対策 (六) 上水道

第二章 通信・放送

一 郵便……………622

二 電話……………626

三 放送……………628

第二章 社会福祉

一 民生事業制度の沿革……………672

二 生活保護……………675

三 児童福祉……………680

(一) 保育所 (二) 児童遊園地
(三) 重信町青少年補導センター

四 老人福祉……………690
(一) 敬老会 (二) 敬老年金と医療援護
(三) 老人クラブ

五 身体障害者福祉……………697
(一) 愛媛県立清愛園 (二) 重信なつめ寮

六 戦争犠牲者の援護……………700

七 国民年金……………702

第七部 治安・消防と兵事

第一章 警察……………705

第二章 消防……………708

一 明治期までの消防……………708

二 消防組の発足……………709
(一) 北吉井村消防組 (二) 南吉井村消防組
(三) 拝志村消防組

三 警防団……………711

四 消防団……………712

第三章 兵事……………716

一 徴兵制……………716

二 日清・日露戦争と出兵……………718

三 シベリヤ出兵……………719

四 昭和期の兵事……………720
(一) 支那事変 (二) 太平洋戦争と郷土
(三) 決戦下の農村

五 重信町戦没者名簿……………725

第八部 宗教

第一章 神道……………755

一 神社……………755

第二章 仏教……………773

一 寺院……………773

第三章 キリスト教……………786

一 寺院……………786

第九部 文化財と観光

第一章 文化財……………789

一 国指定文化財……………789

二 愛媛県指定文化財……………789

三 町指定文化財……………789
(一) 層塔及び五輪塔群 (二) 経塚 (三) 五

四 その他……………798
(一) 臥竜松 (二) 山之内のアカガシ (三) 山之内のシラカシ (四) その他の巨木 (五) 鼻高面 (六) 鉄鉾 (七) 森伊豆守五輪塔 (八) 雨乞い御面 (九) 銭壺と出土銭 (十) 野田天神 (十一) 民家「野中家」と「大西家」
図面一

五 窯跡……………810
(一) 伽藍窯遺跡 (二) 西ノ岡窯

第二章 観光……………820

一 皿ヶ嶺コース……………820

二 重信川コース……………823

三 古城跡……………825
(一) 岩伽羅城 (二) 吉山城 (三) 衣掛城 (四) 鳥ヶ嶽城 (五) 麓城 (六) 花山城

四 岩伽羅城……………825

五 鳥ヶ嶽城……………825

六 麓城……………825

七 花山城……………825

八 衣掛城……………825

九 重信川コース……………823

十 皿ヶ嶺コース……………820

十一 古城跡……………825

十二 岩伽羅城……………825

十三 鳥ヶ嶽城……………825

十四 麓城……………825

十五 花山城……………825

十六 衣掛城……………825

十七 重信川コース……………823

十八 皿ヶ嶺コース……………820

十九 古城跡……………825

二十 岩伽羅城……………825

二十一 鳥ヶ嶽城……………825

二十二 麓城……………825

二十三 花山城……………825

第二章 族制と村落社会……………840

一 家族……………840

二 族縁呼称……………841

三 同族神と祭祀仲間……………844

四 村落社会……………844
(一) 村の組織 (二) 組つきあい (三) 村の交際

五 年齢集団と信仰集団……………850
(一) 年齢集団 (二) 信仰集団

第三章 年中行事……………856

一 正月行事……………856

二 春から夏の行事……………866

三 盆行事……………871

四 秋から冬の行事……………873

第四章 人の一生(通過儀礼)……………879

一 産育……………879

二 婚姻……………881

三 食生活……………834

四 住居……………837

五 家族……………840

六 族縁呼称……………841

七 同族神と祭祀仲間……………844

八 村落社会……………844
(一) 村の組織 (二) 組つきあい (三) 村の交際

九 年齢集団と信仰集団……………850
(一) 年齢集団 (二) 信仰集団

十 年中行事……………856

十一 正月行事……………856

十二 春から夏の行事……………866

十三 盆行事……………871

十四 秋から冬の行事……………873

十五 人の一生(通過儀礼)……………879

十六 産育……………879

十七 婚姻……………881

第一部 自然環境

	三	厄年・年祝い	882
	四	葬儀	882
	第五章	生業	886
	一	農耕	886
		(一) 稲作 (二) 麦作 (三) 農耕儀礼	
	二	畜産	899
	三	製糸	902
	四	川魚漁法	904
	第六章	民俗芸能	908
	一	神楽	908
	二	獅子舞	909
	三	浮嶋神社のねり行事	913
	四	楽頭(念仏踊り)	914
	五	和田霊神の盆踊り	918
	六	上林の盆踊り	921
	七	下林の「かめのこ」つき	923
	第七章	伝説	924
	一	木の伝説	924
	二	石の伝説	928
	三	塚の伝説	932

第二部

	四	淵の伝説	938
	五	お宮とお寺などの伝説	939
	六	お化けの話	947
	七	その他の伝説	951
	人物小伝		957
		武智六平・伝次郎 仙波弥助 志津川村の三義人	
		権右衛門・五郎助 孝子半六 久左衛門 孝子金	
		松 堯音和尚 武智彦八 橋並右衛門 西川奎右	
		衛門 小山九左衛門朝真 戒能弁右衛門 渡部五	
		郎右衛門 野村良哲 池川次太郎 天野知規 豊	
		島要三郎 東俊造 渡部新五郎 東澤衛 重松寛	
		勝 大西良実 山内忠平 浅井平三郎 相原庫五	
		郎 渡部善次郎 相原直温 東村縫次郎 谷口熊	
		之助 野中親三郎 小山东重 和田伍郎 末光元	
		広 牧茂市郎 長谷川武次郎 渡部亀太郎 森岸	
		子	
	付表		977
		歴代村長・助役・収入役名簿	977
		村会議員名簿(明治二三年〜昭和三年)	984
		旧三か村決算状況の推移	1015
		重信町普通会計決算の推移	1008
		郷土略年表	1012